KANSAI UNIVERSITY TOKYO CENTER KUT
KUT OB OG INTERVIEW
2021 10 WINTER

関東から関西へ。入学前から貫いてきた鉄道と防災への志。あきらめないことが今に続く道だった。

八幡電気産業株式会社 営業部 第一グループ
重松 勇輝さん
関西大学 社会安全学部
安全マネジメント学科 2017年卒

1995年生まれ、千葉県出身。高校時代を都内で過ごす。
東日本大震災をきっかけに防災に関心を持ち、
関西大学社会安全学部へ入学。
交通の安全をテーマにした卒論が学部内で優秀論文に選出。
4年生で実家に拠点を置き関大東京センターを利用して就活。
2017年に防災機器のメーカーへ入社し、2019年に鉄道車両の
車内放送装置を製造する八幡電気産業株式会社へ転職。
現在は千葉県の実家で父と母の3人暮らし。趣味はスポーツ
観戦で、千葉ロッテマリーンズや柏レイソルのファン。

**電車の中に流れる停車駅や乗換案内についてのアナウンスは、私たちの日常に欠かせないもの。
鉄道ファンからの注目度も高く、車内放送を聞いて楽しんだり、分析したりする人もいます。
こうした鉄道の車内放送装置を開発しているのが、八幡電気産業株式会社。
そして、その営業部では関西大学出身の重松勇輝さんが、社会安全学部で学んだ経験を生かして活躍しています。
関東出身ながらも「将来は鉄道と防災に携わりたい」と関西大学へ進学し、志望業界へ就職。
目標に向かって真っすぐ進んできた重松さんに、学生時代のお話から今の仕事への思いまでを伺いました。**

千葉出身で、都内の高校から関西大学へ進学しました。もともと鉄道が好きだったので、鉄道について学術的に研究してみたいと思っていましたが、進路を決定するきっかけになったのは東日本大震災でした。未曾有の災害が起こり、計画停電や断水を経験したことで、防災や災害対策に興味を持つようになったんです。

趣味の鉄道と、身をもって重要性を知った防災。せっかくなら両方を学べる大学がないか探したときに、関西大学の社会安全学部を見つけました。社会安全学部では、地震や津波などの自然災害と、交通事故や情報セキュリティ、企業のコンプライアンス違反、労働災害といった社会災害を学術的な観点で学ぶことができます。防災はもちろん、交通の安全という面で鉄道について学べると知り、「ここならやりたいことができる」と感じましたね。関東の大学ではなく実家から離れた大阪だからこそ、1人暮らしができるのも、いい経験になるだろうと思いました。第一志望が決まってからは、すごくがんばって勉強しましたね。志望校判定では厳しかったのですが、諦めずに挑戦して本当によかったです。

講義だけでは得られない学びがあった学生時代
ずっとやりたかった分野を研究し、卒論が優秀論文に

大学時代の学びは、とても濃密でした。社会安全学部の授業は講義だけでなく、学外の施設で実習をする機会がたくさんあるんです。神戸や滋賀などさまざまな施設へ行きましたね。神戸にある「人と防災未来センター」では、資料を通して阪神・淡路大震災について知るのはもちろん、震災の教訓をもとに防災にどのように取り組むべきかを学びました。

また、自治体の広域防災施設では、体験を通して自然災害と社会災害の脅威に触れました。人工地震発生装置を使って地震を発生させる実験をしたり、平常時は触れる機会のない消火栓を使用する体験をしたり。交通事故の疑似体験では、時速約10キロで走っている車が急ブレーキを踏んだときにシートベルトを着けていないと、どのような危険が伴うのかを体験しながら学習しました。講義を受けるだけではイメージが湧きませんが、こうした体験実習があったことで、より深く学ぶことができたと思います。

また、ゼミでの活動も印象に残っていますね。私は交通論を専門にしている西村弘教授のゼミに所属し、ずっとやりたかった鉄道の事故対策について研究しました。卒業論文は、駅のホームドアについて。ここ数年でかなり設置する駅が増えてきましたよね。苦労したかいあって、卒論は学部内で優秀論文として表彰されました。学びたい分野に真剣に取り組んだのは、いい思い出です。

関大生の誰よりも東京センターを利用していた
職員や卒業生からのアドバイスに支えられた就活

4年生になるとゼミにもほとんど行かなくてよかったので、大阪から千葉の実家に戻ってきて、東京センターを利用しながら就活しました。企業の説明会は東京駅の近くで開催されることが多いので、隙間時間ができたときは必ず東京センターへ。パソコンがあって印刷もできるので、エントリーシートを作るなど有意義な時間の使い方ができて助かりました。実家から東京駅まで定期券を買って、就活の予定がなくてもほぼ毎日利用していましたね。もう、自分のキャンパスじゃないかと思うくらい、他の関大生の誰よりも通い詰めました。

東京センターの職員の方には、就活の相談にのってもらうなどお世話になりました。エントリーシートの添削をはじめ、話し方やビジネスマナーを見てもらうことも。定期的に開催されていた就活生とOBOGの交流会「東京知ル活」というイベントにも、積極的に参加しましたね。なるべく社会人と交流していろんな意見をもらい、参考にしたかったんです。

周りの社会安全学部の学生は、セキュリティ業界や防災関係のメーカーに進む人が多かったと思います。防災って自治体が取り組む分野でもあるので、公務員を目指す人もたくさんいました。私は防災関係のメーカーはもちろん、鉄道各社も受けていました。あと、火災報知器や防火シャッターのメーカーも。最終的に、鉄道にはご縁がありませんでしたが、防災機器メーカーに内定。火災報知器や消火栓を取り扱う会社に新卒で入社しました。

重松さんのある1日

6：00　起床
●シリアルで軽めの朝食をとる。
在宅ワークが増えて健康志向に。

7：00　通勤
●自宅から品川駅周辺の職場へ約1時間かけて移動。

8：00　出社

8：45　朝礼
●メールチェックや見積書の作成。
●社内での打ち合わせ。

12：00　昼休み
●品川駅周辺でランチをとるか、
社内でコンビニのおにぎりを食べる。

13：00　移動

14：00　打ち合わせ
●東京駅でクライアントの鉄道会社や
車両メーカーと打ち合わせ。

17：00　帰社
●メールチェック。

17：45　休憩
●コンビニのおにぎりで夕食を済ませる。

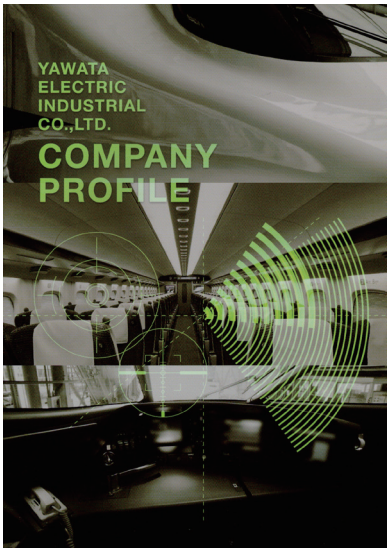
18：00　資料作成
●その日の打ち合わせ内容をまとめる。

20：00　退社

21：00　帰宅
●入浴、SNSチェック。

24：00　就寝

高度な技術と品質で日本の鉄道システムに貢献しています



鉄道の車内放送装置と列車無線装置を中心に開発を行う通信機器メーカー。環境に配慮しながら、多くの人をより安全に、早く、快適に目的地まで送り届けられるよう、製品開発に取り組んでいます。近年では培ってきた技術力と信頼をもとにグローバル展開し、さまざまな国の発展を手助けする国際貢献にも力を入れています。

http://www.yawatadenki.co.jp/
八幡電気産業株式会社
〒108-0074
東京都港区高輪3-25-23 京急第2ビル4F
TEL：03-5792-7101　FAX：03-5792-7100

何事も諦めないって、難しくて苦しい だけど挑戦するからこそ夢や目標が叶う

私は「何事も諦めずに挑戦してみる」という姿勢が大切だと思っています。挑戦してみることで夢や目標が叶うこともあるから。関大を受験するときも志望校判定では厳しかったのに何度も挑みましたし、キャリアの面でもそう。社会人になってからは、目標としていた防災業界へ就職できたのはよかったものの、やはり鉄道が好きという気持ちもあって。社会人3年目で思い切って転職活動をして、八幡電気産業株式会社に入社しました。

鉄道関連の企業の中で今の会社を選んだ理由は、これまでの経験を生かせると思ったから。1社目では火災報知器や消火栓はもちろん、インターホンや放送設備も取り扱っていたので、そうした機器を開発するノウハウを学べました。学生時代に研究した交通の安全と、社会人経験で得られた放送設備にまつわる知識をもとに、鉄道業界に貢献していきたいです。

転職して1年経った今の目標は、英語を学ぶこと。学生時代にもTOEICや英検を受けるなど勉強していましたが、これから学びたいのはビジネス英語。八幡電気産業株式会社はイギリスにも展開しているので、世界の鉄道に携わることも見据えてスキルアップしたいですね。

時代に合わせて変化していく車内放送
アナウンスは綿密な打ち合わせから生まれる

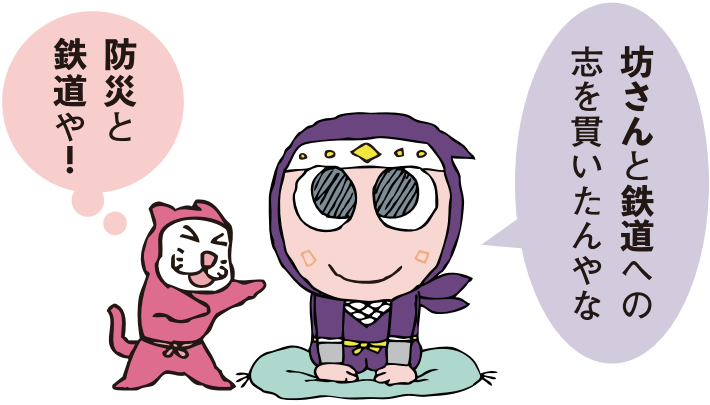
現在、私は鉄道事業者様に向けた営業をしていますが、営業といってもただモノを売るようなスタイルではありません。新型車両の導入や新たな鉄道の開業、路線の名称変更などのタイミングで、企画・設計の段階から鉄道会社や車両メーカーと共に車内放送装置を開発しています。車内放送装置の仕様については、こちらから企画提案することもあれば、クライアントの要望に沿って手配することも。多いのは英語のアナウンスにまつわる要望ですね。例えばJR山手線で次の停車駅が上野駅の場合、「The next station is Ueno」をどんなイントネーションやアクセントでアナウンスするのかといったところまでクライアントと詰めます。あとは、新型コロナウィルスの影響で、感染症対策としてマスクの着用を呼び掛けるアナウンスを入れてほしいという要望もあります。

車内放送の内容が決まったら、アナウンサーを手配してスタジオで録音します。そして、そのアナウンスで問題ないかどうかをクライアントに聞いてもらい、確認がとれて初めて車内に流れるようになるんです。普段、皆さんが電車に乗っているときは何気なく耳にしているかもしれませんが、車内放送の内容は時代や社会情勢に合わせて変わっていきます。

「あなたにとって関西大学とは？」

私にとって関西大学は、「ふるさと」ですね。関東から関西大学へ進学して、最初は言葉や食文化にカルチャーショックを受けました。でも、文化の違いを知ったことで、日本全国どこへ行っても、その土地に親しみを持てるようになったと思います。今では2週間に1回の名古屋出張など、仕事で地方に行く機会が結構ありますが、ローカルトークにもついていけますよ。取引先の部長が高槻に縁のある人で、“高槻トーク”がきっかけで仲良くなったことも。こうした人とのつながりは、関西大学で培った価値観のおかげで生まれるもの。また、今でも東京センターに行くとOBやOGの方との新たな交流があります。そうした人とのつながりの中で、卒業して大阪から離れてしまっても、自分にとって関西大学は「ふるさと」なんだなと感じています。

（撮影・取材：関西大学東京センターにて）



KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介する特集です。

● 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをすること。時には取材にも参加します。

KANSAI UNIVERSITY TOKYO CENTER KUT

関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー9階
TEL：(03) 3211-1670（代）FAX：(03) 3211-1671
http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/

公式Twitter　公式Facebook　LINEスタンプ

KUT OBOG Interview (10) 2021-Winter

＊無断転載を禁じます。

発行・監修｜関西大学東京センター
企画・編集｜esora-ria
お問合せ先
ku-tokyo@ml.kandai.jp